

令和元年12月20日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04384

研究課題名(和文) マレーシアの国民統合に関する研究：RIMUPの成果と可能性

研究課題名(英文) National Integration in Malaysia: Prospects and Challenges for the RIMUP

研究代表者

畝川 憲之 (Segawa, Noriyuki)

近畿大学・国際学部・教授

研究者番号：10388332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、RIMUP(国民統合のための生徒交流政策)の国民統合発展への成果、将来の可能性の各点について検証するものである。研究遂行にあたり、マレーシア国民大学民族問題研究所の客員研究員のポジションを獲得した。平成27年度～29年度に6度現地調査を実施し、関係省庁および教育関係NGO、そして小学校の教員へのインタビュー、RIMUP参加生徒へのアンケート調査を行った。調査を通して、RIMUPは諸民族の合意を得たプログラムであり、継続可能かつ将来性のあるプログラムであることが明らかとなった。しかし、同プログラムはその構造に大きな課題を抱えており、国民統合への効果は限定的になることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、RIMUPの効果の拡大、さらにはマレーシアの国民統合発展へ向けての教育政策を立案する上で非常に重要な提言を行うものであった。また、マレーシアのみならず、諸多民族国家における国民統合の発展に関する研究の前進に貢献するものであったと考える。さらには、民族交流(contact theory)のこれまでの研究が先進国の事例を中心に分析したものであったことを踏まえると、マレーシアを事例として扱う本研究はcontact theory研究の発展にも貢献するものであったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this research, the possibilities and limitations of the RIMUP for the development of national integration were examined. To this end, I conducted a field research two times in each year from 2015 to 2017. I had interview research with government departments, education NGOs, and headmasters and teachers in ethnic-based primary schools participating in a RIMUP activity while conducting a survey among students participating in a RIMUP activity. This research found that the RIMUP has faced three structural challenges: the government's weak management; the short duration and low frequency of activities; and the low student participation rate. This research concluded that the RIMUP will not substantially contribute to the development of national integration unless the structural challenges are resolved.

研究分野：比較政治学、教育社会学

キーワード：マレーシア RIMUP 国民統合 教育政策 民族間交流 Contact アイデンティティ 民族

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) マレーシアは、マレー系約 60%、華人約 30%、インド系約 10%からなる多民族国家であり、国民統合の達成は独立以降の最重要課題である。国民統合へ向けて、約 50 年間にわたり様々な政策を実施してきたものの、今までのところ大きな成果を上げていない。

マレーシアの初等教育は、多民族状況を反映するものとなっており、マレー語、華語、タミール語を教育言語とする三つの形態からなる。独立以降、これら三つの形態を一本化することを最終目標として、政府は様々な政策を実施してきたが、非マレー人からの強い反発により、一本化の目標は前進していなかった。

(2) 2000 年代半ばより、民族間の交流促進により、諸民族の相互理解・尊重の深化、共通の経験・価値観の創出を通して国民統合を前進させようという新たな動きが見られるようになってきた。民族間交流が国民統合に寄与することは、Allport, W. Z (1958. *The Nature of Prejudice*. Anchor Books: New York), Weaver, C.N (2007. *The Effects of Contact on the Prejudice between Hispanics and non-Hispanic Whites in the United States*, *Hispanic Journal of Behavioral Sciences*, 29(2): 254-274)などが明らかにしてきたとおりである。そして、マレーシア政府は Malaysia Education Blueprint 2013-2025 において、教育における民族間の交流促進が国民統合の基礎を作るもっとも効果的な手段であるという考えを強調し、RIMUP の強化・拡大、そして RIMUP を国民統合へ向けての主要政策とすることを表明した。

RIMUP (Rancangan Integrasi Murid Untuk Perpaduan、国民統合のための学生交流政策)とは、民族間交流の促進へ向けて、形態の異なる複数の小学校が合同で様々な行事を行うというプログラムである。同プログラムは、民族間交流を通して、諸民族の相互理解の深化、共通の価値観(国民アイデンティティ)の創出、そして国民統合の発展を目的とする。

RIMUP の成果、将来の可能性に関する研究はマレーシアの国民統合を考える上で非常に重要なものであるが、これらの研究は国内、国外を問わずほぼ皆無であった。

2. 研究の目的

本研究は、RIMUP の国民統合発展および国民アイデンティティ形成への成果、将来の可能性の各点について検証するものであった。実際の教育現場における調査だけでなく、非マレー教育関連機関および市民社会が、同プログラムの強化・拡大にどのように反応しているかを考察するため、教育社会学的ならびに政治学的アプローチを融合した新しい学際的視角を導入し、RIMUP の成果ならびに将来的可能性について、総合的な検証と評価に挑むものであった。

(1) RIMUP の国民統合への成果

唯一の先行研究である政府系機関 School Inspectorate and Quality Assurance (Malaysia) の報告書が「RIMUP を通して民族間の交流がうまく進んでいる」という評価を下したとされているが、そのレポート自体が非公表であり、もちろん評価方法、分析手法も不明瞭であるため、その評価が信用に足るものであるかは定かではなかった。このように、RIMUP の評価につながる学術研究は欠落したままとなっていた。そこで本研究は、RIMUP の国民統合発展への寄与に関する客観的評価を行うことを目的とした。

(2) RIMUP の将来的可能性

初等教育における交流政策の急先鋒であった Vision School プログラム(三つの形態の小学校を一つの敷地内に置き、民族交流を進める)は、華人社会からの反発(多くの華人が「Vision School は華語小学校の廃止に繋がるのではないか」という脅威を感じていた)によって失敗した。Blueprint 2013-2025 の中に、将来的に初等教育をマレー語に一本化することを示唆する文言が示されており、RIMUP がその一過程であると解釈され、同プログラムも失敗に終わる可能性があると考えられた。しかし、RIMUP の継続可能性に関する学術研究は一切行われていなかったため、本研究では、非マレー教育関連機関および市民社会が、同プログラムの強化・拡大にどのように反応しているかの調査をとおして、RIMUP の将来の可能性について考察を行うこととした。

3. 研究の方法

本研究において、RIMUP の国民統合発展および国民アイデンティティ形成への成果を検証する教育社会学的研究では、主に RIMUP に参加する教育機関の生徒へのアンケート調査を通して、同プログラムの国民統合発展への成果の分析を行った。政治学的研究では、各民族特に華人の教育関係団体などの市民社会が同プログラムの強化・拡大にどのような反応をしているのかをインタビュー調査を通して分析し、RIMUP の将来的可能性、将来的継続性の考察を行った。

(1) RIMUP の国民統合への成果

平成 28 年度、29 年度に、セランゴール州およびクアラランプールにある 27 の小学校の校長、

教員に対して、RIMUP の成果についてのインタビュー調査を実施した。また、RIMUP の実施現場において民族交流（民族間の対話など）がどの程度進んでいるかの観察を行うとともに、平成 30 年度には、セランゴール州で実施された 4 つの RIMUP プログラム（マレー語小学校、華語小学校参加）において、参加生徒に対して、民族の相互理解・尊重、共通の価値観の創出に関するアンケート調査を行った。

（ 2 ） RIMUP の将来的可能性

平成 27 年度～29 年度に 6 度現地調査を実施し、非マレー教育関係団体などの市民社会を中心に、RIMUP そのもの、また RIMUP の強化・拡大の表明にどのような反応を示しているか、インタビュー調査を行った。

4 . 研究成果

（ 1 ） RIMUP の国民統合への成果

RIMUP への参加生徒に対して実施したアンケート調査結果の分析によって、RIMUP が民族間関係の改善にいくらかの効果を持つことが明らかとなった。表 1 が示す通り、プログラムの実施により、民族間の緊張状況が緩和している。

アンケート調査は、民族間関係について問う七つの質問から構成されており、1（民族間関係について positive な反応）から 4（民族間関係について negative な反応）の四段階（スコアが低いほど民族間関係は良好であることを示す）で回答する形式をとった。

表 1 RIMUP の民族間関係へのインパクト

Activity		Average Score		
		Before	After	Difference
A	Cultural Exchange 1	1.976	1.500	-0.476
B	Sports (4 x 100m relay)	1.750	1.580	-0.170
C	Cultural Exchange 2	2.333	1.425	-0.903
D	Cultural Exchange 3	1.467	1.425	-0.042

しかし、校長、教員および省庁へのインタビュー調査を通して、RIMUP には 3 つの構造的課題「政府の Management に欠点がある」、「プログラムの実施頻度が少なく、期間が短い」、「プログラムへの参加生徒数が非常に少ない」があることが明らかとなり、またこれらの課題が RIMUP の効果を限定的にしていることが明らかとなった。

政府のプログラム Management に欠点がある

Allport が示す Contact の効果を引き出す 4 条件が RIMUP の実施において満たされているかを考察し、4 条件のそれぞれが全くもしくはほぼ満たされていない状況であることが明らかとなった。つまり、RIMUP の効果は限定的なものになると考えられる。

プログラムの実施頻度が少なく、期間が短い

これまでに政府などによって行われた民族間関係に関する調査データ（表 2）本調査において実施した RIMUP への参加生徒に対するアンケート調査結果の分析により、民族間の交流は、その実施期間が長くなればなるほど大きな効果が出ること、短期間のプログラムによる効果は長続きしないことが明らかとなった。つまり、実施頻度が少なく、期間の短い RIMUP には限界があると考えられる。

表 2 民族交流プログラムのインパクト（1日プログラムと5日以上プログラムの比較）

1 Day Activity			More than 5 Day Activities		
Before	After	Difference	Before	After	Difference
1.532	1.474	-0.058	1.448	1.361	-0.087

表3 平均スコアの変化

Programme A: Cultural Exchange 1

	Immediately Before	Immediately After	1 Month After	3 Months After
Average Score	1.955	1.379	-	1.500
Difference	-0.576		-	+0.121

Programme B: Sports

	Immediately Before	Immediately After	1 Month After	3 Months After
Average Score	2.083	1.688	1.400	1.792
Difference	-0.395		-0.288	+0.392

Programme C: Cultural Exchange 2

	Immediately Before	Immediately After	1 Month After	3 Months After
Average Score	2.483	1.350	1.117	1.283
Difference	-1.133		-0.233	+0.166

Programme D: Cultural Exchange 3

	Immediately Before	Immediately After	1 Month After	3 Months After
Average Score	1.433	1.317	1.250	1.217
Difference	-0.116		-0.067	-0.033

プログラムへの参加生徒数が非常に少ない

本調査を通して、RIMUPに参加する生徒数は、マレーシアの全対象生徒の約0.5%のみであることが明らかとなった。これは、RIMUPによる国民統合への寄与は、Direct Contactによる効果ではなく、Extended(Indirect) Contactによる効果に期待しなければならないことを意味する。ただし、Contact Theoryに関する先行研究が、Extended Contactの効果は限定的であることを明らかにしていることを考えると、RIMUPの効果が限定的なものになると考えられる。

また、普段の小学校生活において、10%前後の生徒が民族間のDirect Contactを行っており、この普段のContactが国民統合の前進にこれまで大きな効果を示していないことを考えると、0.5%の生徒の交流のみのRIMUPの効果は非常に少ないと考えられる。

(2) RIMUPの将来的可能性

6度の現地調査を通して、RIMUPは、非マレー教育関係団体などの市民社会からも好意的に受け取られており、実施において大きな障害はなく、持続可能な将来性のあるプログラムであることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1件)

Noriyuki Segawa. 2018. Impact of RIMUP on National Integration in Malaysia: Direct and Extended Contact Effect. *The 25th IPSA World Congress of Political Science Proceedings*.

〔学会発表〕(計 5件)

Noriyuki Segawa. 2018. Education Policies for National Integration in Malaysia: Challenges and Future Prospects. Association of Southeast Asian Studies UK 2018 Conference, Leeds.

Noriyuki Segawa. 2018. Impact of Ethnic Interaction on National Integration in Malaysia: Possibilities and Limitations of the RIMUP. The 25th IPSA World Congress of Political Science, Brisbane.

Noriyuki Segawa. 2018. Prospects of the Student Integration Plan for Unity (RIMUP) in Malaysia: the Plan's Structure and Allport's Optimal Conditions. Taiwan Southeast Asian Studies Annual Conference 2018, Taitung.

Noriyuki Segawa. 2017. Prospects of the RIMUP in Malaysia: National Integration and Ethnic Interaction in Education. British Educational Research Association 2017 Annual Conference, Brighton.

Noriyuki Segawa. 2016. Unity and Education in Malaysia: Assimilation, Multiculturalism and New Perspective. International Conference on Humanities and

Cultural Studies. Hotel International Panorama, Prague.

〔図書〕(計3件)

Noriyuki Segawa. 2019. *Ethnic Relations at School in Malaysia: Challenges and Prospects of the Student Integration Plan for Unity*. Palgrave Macmillan: Singapore.

Noriyuki Segawa. 2019. A New Approach towards National Integration. In Noriyuki Segawa, *National Identity, Language and Education in Malaysia: Search for a Middle Ground between Malay Hegemony and Equality*. Routledge: London.

Noriyuki Segawa. 2016. Unity and Education in Malaysia: Assimilation, Multiculturalism and New Perspective. In Tufan Cotok and Yusuf Sahin, eds., *Social Sciences: Fresh Start*. Dobra Knjiga: Sarajevo.

6 . 研究組織

(1)研究協力者

研究協力者氏名 : Shamsul Amri Baharuddin

ローマ字氏名 : Shamsul Amri Baharuddin

Distinguished Professor and Founding Director of Institute of Ethnic Studies at the National University of Malaysia